

製品名: ARHGAP22 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07124**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	77kDa

抗原情報

遺伝子名	ARHGAP22
別名	ARHGAP22; RHOGAP2; Rho GTPase-activating protein 22; Rho-type GTPase-activating protein 22
遺伝子 ID	58504.0
SwissProt ID	Q7Z5H3
免疫原	抗血清はヒト RHG22 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 565-614

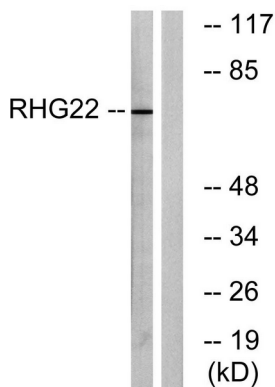
背景

この遺伝子は、低分子 GTP 結合タンパク質の RAS スーパーファミリーに属する GTPase を活性化する GTPase 活性化タンパク質ファ

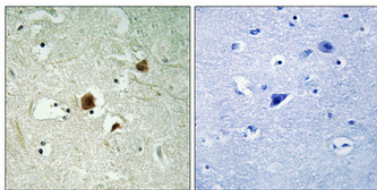
ミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質はインスリン応答性があり、キナーゼ Akt に依存し、2つのセリン残基に連続的に結合する Akt 依存性 14-3-3 結合タンパク質を必要とします。これらの相互作用の結果、細胞運動が調節されます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2011 年 12 月]、機能：血管新生中の内皮細胞毛細血管形成を制御するシグナル伝達経路に關する Rho GTPase 活性化タンパク質。RAC1 を不活性な GDP 結合状態に変換することにより、RAC1 の GTPase 活性化因子として作用します。RAC1 依存性のラメリポディア形成を阻害します。VEZF1 との相互作用により、エンドセリン 1 (EDN1) プロモーターの活性を調節することで転写制御にも關与する可能性があります。類似性：PH ドメインを 1 つ含む。類似性：Rho-GAP ドメインを 1 つ含む。細胞内局在：主に細胞質内。一部は核内に存在する。サブユニット：VEZF1 と相互作用する。

研究分野

画像データ



RHG22 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高压高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。